



国立公園満喫プロジェクト

伊勢志摩国立公園 ステップアッププログラム 2030

令和 8 年 4 月 22 日策定

伊勢志摩国立公園地域協議会



目次

はじめに.....	1
1. 現状分析.....	2
(1) 伊勢志摩国立公園について.....	2
1) 伊勢志摩国立公園の概要.....	2
2) 利用状況.....	3
(2) SUP2025 の取組状況.....	11
(3) 現状の課題.....	18
2. コンセプトとビジョン、基本方針.....	20
(1) 伊勢志摩国立公園のコンセプト.....	20
(2) 伊勢志摩国立公園ビジョン.....	20
(3) SUP2030 の基本方針.....	23
3. ターゲットとアウトカム指標・アウトプット指標.....	24
(1) ターゲット.....	24
(2) アウトカム指標・アウトプット指標.....	25
4. プロジェクトの実施.....	27
(1) 重点施策・集中的に取り組む事項.....	27
1) 多様な人々にとって価値のある国立公園の創出.....	27
2) 深掘りした価値を伝えるエコツーリズムの推進.....	27
3) 広域連携 -受入体制-.....	28
4) 広域連携 -プロモーション-.....	28
5) 指定 100 周年に向けた目標の設定と予算の確保.....	28
6) 地域特性を生かした「伊勢志摩モデル」の評価指標構築.....	29
(2) プロジェクト実施案 【参考】.....	29
1) 多様な人々にとって価値のある国立公園の創出.....	29
2) 深掘りした価値のエコツーリズムの推進.....	30
3) 広域連携 -受入体制-.....	30
4) 広域連携 -プロモーション-.....	30
5. 効果検証.....	31
(1) スケジュール予定（取組の進捗確認と目標の達成）.....	31
(2) 目標の達成状況に係る評価.....	32
(3) プログラムの改訂.....	32
伊勢志摩国立公園地域協議会設置要綱.....	33

はじめに

平成 28 (2016) 年 3 月、政府は「明日の日本を支える観光ビジョン」を策定し、この中で国立公園は世界水準の「ナショナルパーク」としてブランド化し、2020 年までに、訪日外国人の国立公園利用者数を 2015 年の 490 万人から 1000 万人に増加するという目標が掲げられました。

この目標の達成に向けて環境省は「国立公園満喫プロジェクト」を展開することとし、2016 年 7 月、伊勢志摩国立公園は、全国の国立公園の中で先導的・集中的な取組を実施する国立公園の一つに選定されました。国立公園満喫プロジェクトの趣旨は、国立公園の保護と利用の好循環により、優れた自然を守り地域活性化を図ることです。そのためには、国立公園の魅力・ブランド力を更に向上させていくとともに、国内外の利用者が国立公園を満喫できる環境を整えることが必要です。

伊勢志摩国立公園では、このプロジェクトを推進するため、伊勢志摩国立公園地域協議会を設立し、計画期間を 5 年間とする行動計画「ステップアッププログラム (以下、「SUP」という。2016 年：SUP2020、2021 年：SUP2025)」を策定し、地域主体による官民一体となった取組を展開してきました。

SUP2025 は、2020 年からの新型コロナウイルス感染症の拡大により国内外の利用者数が大幅に減少していたことを踏まえ、同ウイルスの影響前の国内外利用者の復活を目指して取り組み、伊勢志摩国立公園においても、2024 年の訪日外国人利用者数は 2019 年の 7.1 万人を上回って 9.4 万人となり、数値目標は達成しました。

2026 年 11 月 20 日には伊勢志摩国立公園指定 80 周年を迎えます。これを機に、2025 年 3 月、伊勢志摩国立公園の 10 年後・20 年後の将来像、目指すべきゴールとして「伊勢志摩国立公園ビジョン」を策定しました。本 SUP2030 は、これまでの取組や現状を踏まえるとともに、「伊勢志摩国立公園ビジョン」実現のための行動計画として策定します。計画期間は 2026 年度から 2030 年度までの 5 年間としますが、指定 90 周年・100 周年を見据え中長期的視点も取り入れた計画とします。引き続き地域主体による官民一体となった取組を、より一層進めていきます。



伊勢志摩国立公園指定 80 周年記念事業 PR 大使

ラッコのメイちゃん

1. 現状分析

(1)伊勢志摩国立公園について

1)伊勢志摩国立公園の概要

伊勢志摩国立公園は、紀伊半島の東端に突出した志摩半島の大部分を占め、東西約50km、南北約40kmにわたる区域を有しています。公園区域の約96%が私有地であり、多くが地域住民の生活圏と重なっています。

三重県の中央部に位置する志摩半島に広がる伊勢志摩国立公園はおおよそ2つのエリアからなり、1つは、伊勢神宮とその背後に広がる豊かな森林環境を有する内陸部のエリア、もう1つは、複雑に入り組んだリアス海岸と多島景観が展開する海沿いのエリアです。

伊勢神宮とその背後に広がる豊かな森林環境を中心とした内陸部は、なだらかな丘陵地で構成されており、最高峰の朝熊山をはじめ、横山、龍仙山、局ヶ頂などからは優れた眺望を楽しむことができます。森林植生については、二次林や人工林が広がる一方で、神宮の宮域林や南伊勢地域には常緑広葉樹を中心とした自然林も残されています。

沿岸部は複雑に入り組んだリアス海岸が特徴で、英虞湾、的矢湾、五ヶ所湾などの入り江や、神島、答志島、菅島など大小多数の島々が織りなす優美な景観が広がります。五ヶ所湾から西側の熊野灘に面する海岸は、山が迫る懸崖となっており、海食崖や海食洞などの特殊な地形が点在する豪壮な景観を形成しています。また、アカウミガメが産卵に訪れる砂浜や、内湾の一部には発達した干潟も存在し、優れた海域景観と豊富な海産資源を有しています。

内陸部は「里山」を内包し、海沿いには「里海」が広がっており、農業、林業、漁業など、人の営みと密接に関わりながら、その生態系が維持されてきた場所となっています。

また、伊勢神宮をはじめ、朝熊山の金剛證寺、二見浦の二見興玉神社、青峯山の正福寺など、古くから信仰の対象となってきた歴史的建造物や伝統文化と自然が織りなす人文景観も本公園の特色です。

京阪神や中京圏からの交通アクセスは良好で、伊勢神宮への参拝のほか、水族館、大規模遊戯施設の利用等を対象とする観光的利用は多いですが、リアス海岸等の風景鑑賞、ハイキングや海でのアクティビティ、歴史や文化、食の体験など、自然を土台とした多様な目的での利用が大きな魅力です。そして本地域が大切に受け継いできた、自然とともにある、歴史や文化、食などの幅広い資源を活用して、先進的にエコツーリズムを推進してきています。これまでのプロジェクトを通して宿泊施設、展望台、園地などの利用施設も充実しており、富裕層をターゲットにした宿泊施設も多く存在しています。

2)利用状況

伊勢志摩国立公園では、SUP2025の数値目標に基づき、取組の進捗管理を行ってきました。2023年には利用者数が788万人に達し、2025年の目標を前倒しで達成しました。訪日外国人利用者数や滞在日数は増加傾向にあり、滞在型観光の定着が進んでいます。

一方で、宿泊者数全体や訪日外国人宿泊者数の伸びは目標に対して未達であり、広域誘客やインバウンド対応の強化が今後の課題となっています。再訪率は増加しているものの、満足度や友人・知人への推奨意向はむしろ低下しており、国立公園の利用の促進にはさらなる工夫が必要です。

2)-① 伊勢志摩国立公園における指標データ

	指標	2019年時点	2020年時点	2021年時点	2022年時点	2023年時点	2024年時点	達成率	2025年目標値	備考	
1	共通 利用者数	786万人	576万人	472万人	694万人	788万人	-	100.3%	786万人	目標7.1万人 越えを達成	
		訪日外国人	7.1万人	※1	※1	※1	6.7万人	9.4万人	132.4%		7.1万人
2	宿泊客延数	訪日外国人	8.9万人	2.1万人	0.1万人	0.7万人	5.3万人	5.6万人	62.9%	8.9万人	公園別・国立公園区域内
		日本人	287.7万人	209.0万人	194.5万人	255.6万人	262.2万人	278.3万人	99.9%	287.7万人	公園別・国立公園区域内
3	1人当たり の支出額	訪日外国人	90,628円	※2	※2	※3	61,623円	190,724円	210.4%	90,628円	
		日本人	32,942円	※2	※2	34,933円	32,101円	48,972円	148.7%	32,942円	
4	滞在日数	訪日外国人	1.8泊	※2	※2	※3	0.4泊	3.1泊	172.2%	1.8泊	国立公園内宿泊数
		日本人	1.2泊	※2	※2	2.3泊	1.2泊	1.2泊	100%	1.2泊	同上
5	満足度	訪日外国人	49.4%	※2	※2	※3	40.8%	26.3%	53.2%	49.40%	7段階の選択回答のうち「7.大変満足」の割合
		日本人	28.7%	※2	※2	22.5%	25.8%	24.2%	84.3%	28.70%	同上
6	個別 再訪率(2回 以上)	訪日外国人	15.5%	※2	※2	※3	18.4%	71.1%	458.7%	15.50%	
		日本人	57.7%	※2	※2	74.5%	68.5%	71.9%	124.6%	57.70%	
参 考	友人・知人へ の推奨意向	訪日外国人	90.0%	※2	※2	※3	81.6%	89.5%	99.4%	-	
		日本人	86.5%	※2	※2	65.1%	64.3%	61.7%	68.9%	-	

※1 新型コロナウイルス感染症の影響により入国が制限され、推計に用いている観光庁「訪日外国人消費動向調査」に中止期間があり年間人数の算出不可

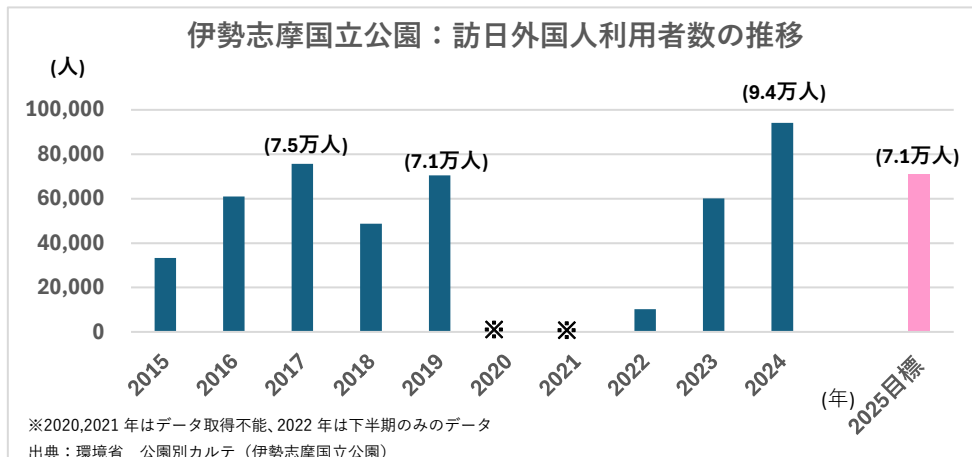
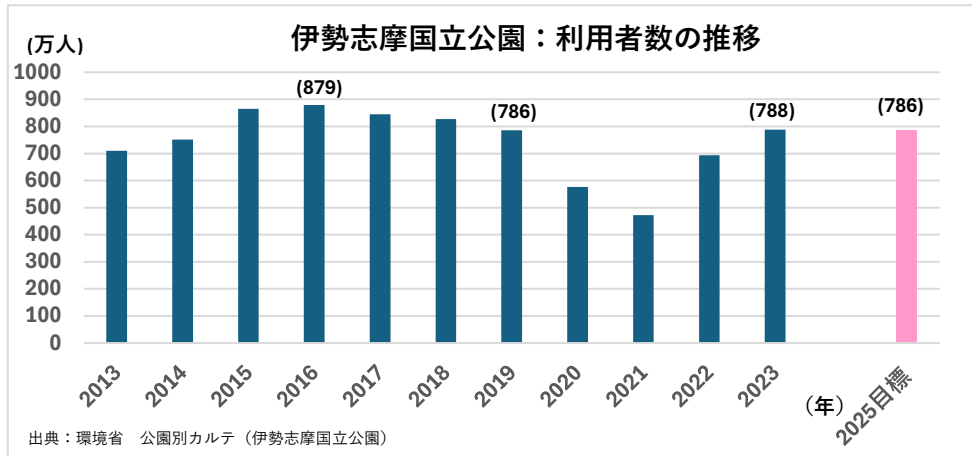
※2 新型コロナウイルス感染症の影響により利用者数が減少したため調査中止

※3 訪日外国人については訪日旅行の再開状況を鑑み回答数は確保が困難と見込まれたことから、過年度業務まで実施していた手法の改良検討を主目的にアジア・欧米豪計12カ国・地域を対象としたWebアンケートパネル調査を実施。日本人利用者対象の調査と同じ内容を把握するのに十分なサンプルが得られない公園もみられた。

【出典：環境省データ】

2)-② 2025年までの量的な目標の達成状況

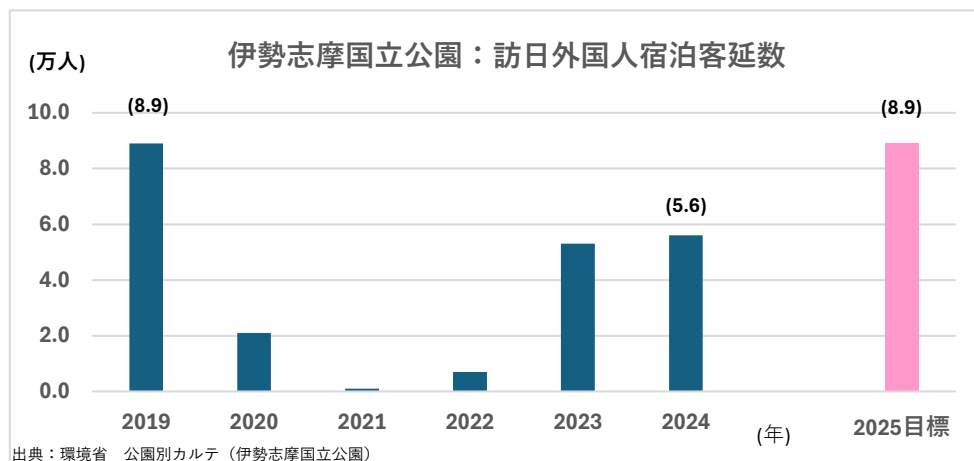
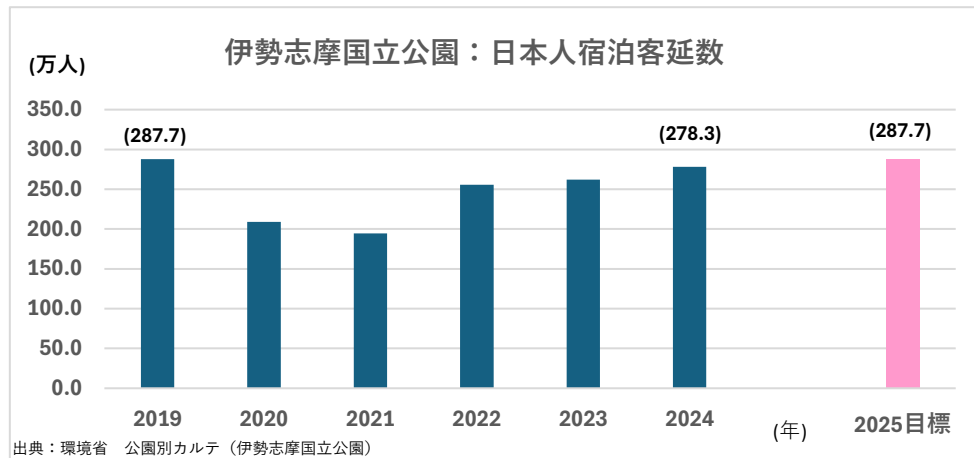
(1) 利用者数



伊勢志摩国立公園の年間利用者数は2023年に788万人となり、2025年の目標であった新型コロナウイルス感染症拡大前の786万人をわずかに上回りました。また、訪日外国人利用者数についても、2024年に9.4万人に達し、2025年の目標である7.1万人を超えて、新型コロナウイルス感染症拡大以前の水準に回復しました。訪日外国人利用者は2024年時点で2025年目標値を32.4%上回る結果となりましたが、当国立公園の訪日外国人比率は2023年で0.8%（2023年）と依然として低く目標達成をもって楽観視できる状況ではありません。

*（参考）全国立公園の訪日外国人利用者数の比率 平均 17.7%（2023年）

(2) 宿泊客延数

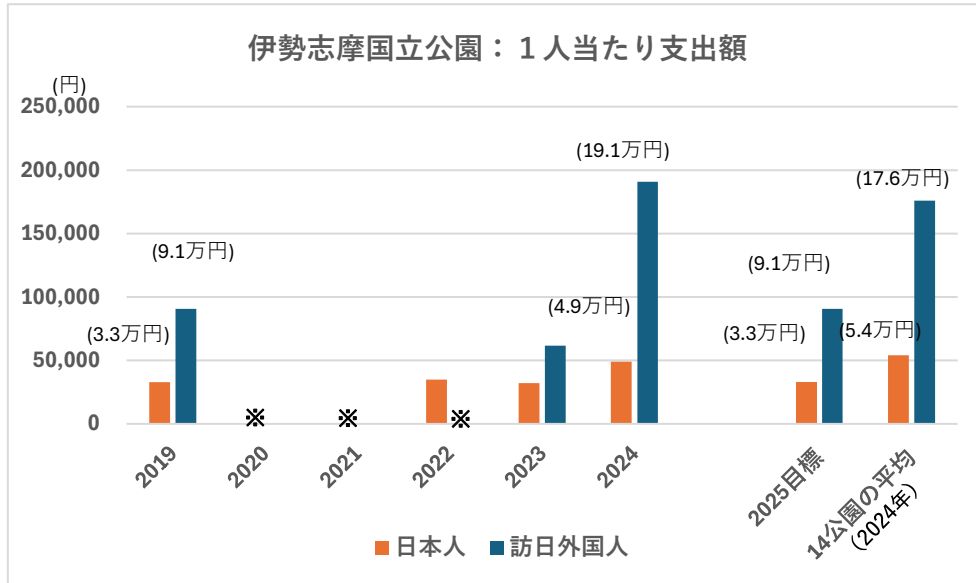


宿泊客延数（2024年）は、新型コロナウイルス感染症拡大以前の水準まで回復していません。とくに訪日外国人の宿泊客延数は、2019年比で63%の水準にとどまっており（2024年時点）、十分に戻っているとは言えません。つまり、当国立公園を訪れる訪日外国人の多くが日帰りで訪れている状況が続いていることとなります。

また、訪日外国人旅行者の宿泊客延数に関しては、全国平均では全宿泊数の約25%を占めているのに対し、当公園では約2%にとどまっており、利用者構成に大きな乖離が生じています。一方で、後述のアンケート結果では、調査対象14公園¹の中で推奨意向が2位、滞在・宿泊日数およびリピート率が1位となっており、当公園を訪れた訪日外国人からの評価は総じて高いと考えられます。これらのデータを踏まえると、訪日外国人の宿泊客延数を増加させるための具体的な対応策を検討する必要があります。

¹ 阿寒摩周、支笏洞爺、十和田八幡平、三陸復興、磐梯朝日、日光、富士箱根伊豆、中部山岳、伊勢志摩、大山隠岐、阿蘇くじゅう、霧島錦江湾、慶良間諸島、やんばるの各国立公園

(3) 支出額



※2020,2021年はデータ取得不能、2022年は訪日外国人のデータ取得不能

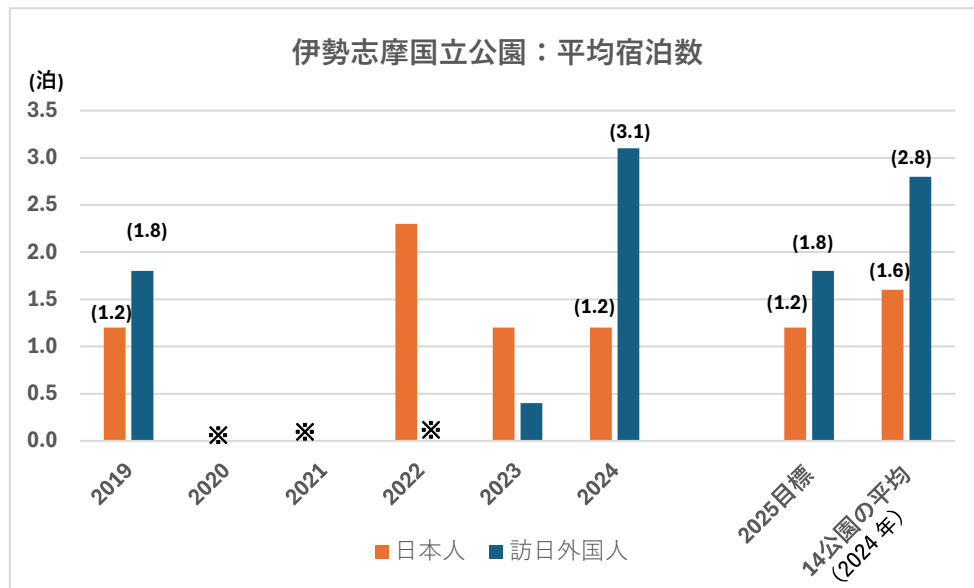
出典：環境省 公園別カルテ（伊勢志摩国立公園）

伊勢志摩国立公園の一人当たり支出額（2024年）は、日本人が48,972円となっており、14公園の平均である54,197円を下回り、順位も14公園中6位となっています。一方、訪日外国人の一人当たり支出額は190,724円で、平均値（175,847円）を上回っていますが、こちらも順位は6位にとどまっています。

訪日外国人の支出額について、2024年はどの公園でも増加傾向にあり、14公園平均では対2023年比177%増となっています。これは、新型コロナウイルス感染症を取り巻く状況が落ち着き、訪日外国人が「じっくり滞在する旅行」を志向するようになったことに加え、円安が追い風となった結果であると考えられます。

また、訪日外国人は日本人に比べて滞在日数が長くなる傾向があり、その分一人当たり支出額が増えると推測されます。さらに、宿泊費以外の支出割合が高いという報告もあり、観光体験型コンテンツや飲食、交通など、地域経済への波及効果が大きくなると考えます。

(4) 平均宿泊数



※2020,2021年はデータ取得不能、2022年は訪日外国人のデータ取得不能

出典：環境省 公園別カルテ（伊勢志摩国立公園）

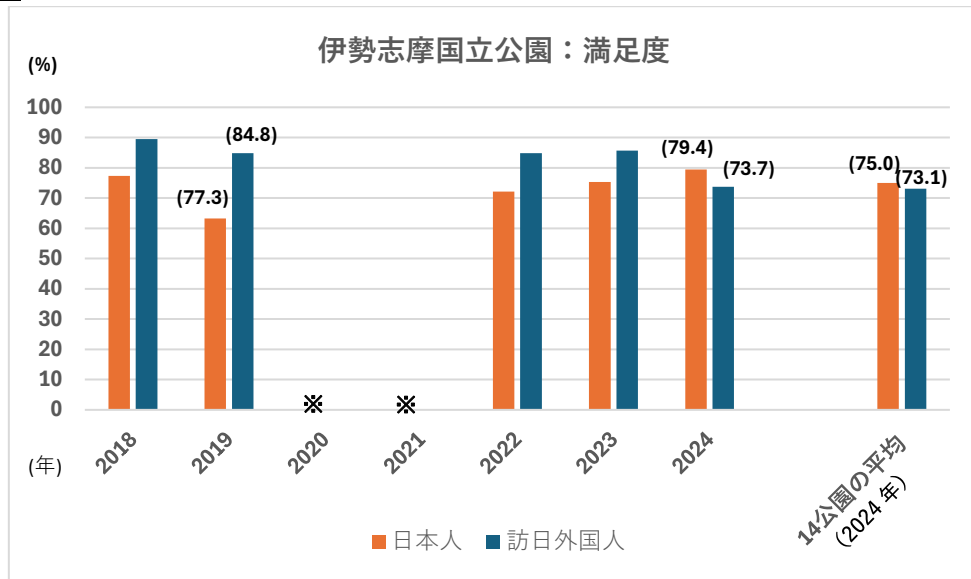
伊勢志摩国立公園の平均宿泊日数（2024年）は、日本人が1.2泊となっており、14公園の平均である1.6泊を下回り、順位も11位となっています。一方、訪日外国人の平均宿泊日数は3.13泊で、14公園平均の2.8泊を上回り、14公園中1位となりました。

当公園は名古屋や大阪といった大都市圏から比較的近いこともあり、日本人利用者は日帰り、または宿泊しても1泊にとどまるケースが多いと考えられます。一方で、訪日外国人は利用者数こそ多くないものの、滞在する場合はしっかりと腰を据えて国立公園を楽しんでいると推察されます。こうした傾向は、宿泊施設や体験コンテンツの充実によって支えられている面もあるといえるでしょう。

都市部から近いという地理的優位性は大きなメリットである一方、日本人の宿泊につながりにくいという課題も抱えています。今後は、より魅力的な体験コンテンツの提案や、国立公園内を広域的に楽しんでもいただける仕組みづくりを進めることで、日本人の宿泊数を増やしていくことが可能になると考えます。

2)-③ 2025年までの質的な目標の達成状況

(1) 満足度

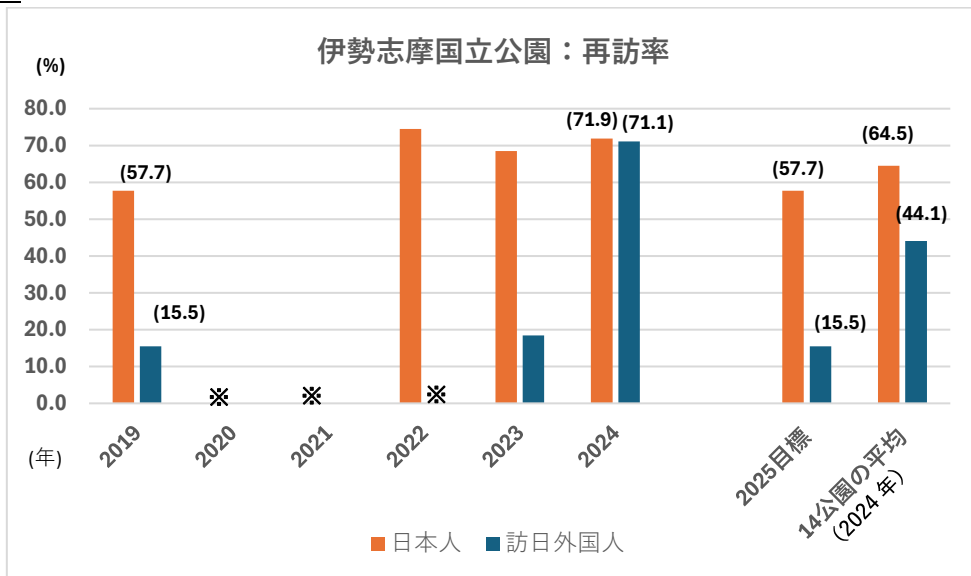


※2020,2021年はデータ取得不能

出典：環境省 公園別カルテ（伊勢志摩国立公園）

伊勢志摩国立公園における満足度調査（2024年）では、日本人利用者の満足度（「大変満足」と「満足」の合計）は79.4%となり、14公園の平均である75%を上回り、順位も3位となっています。訪日外国人についても満足度は73.7%で、14公園平均の73.1%を上回り、順位は5位でした。いずれの利用者層においても、当公園は平均を上回る評価を得ています。

(2) 再訪率



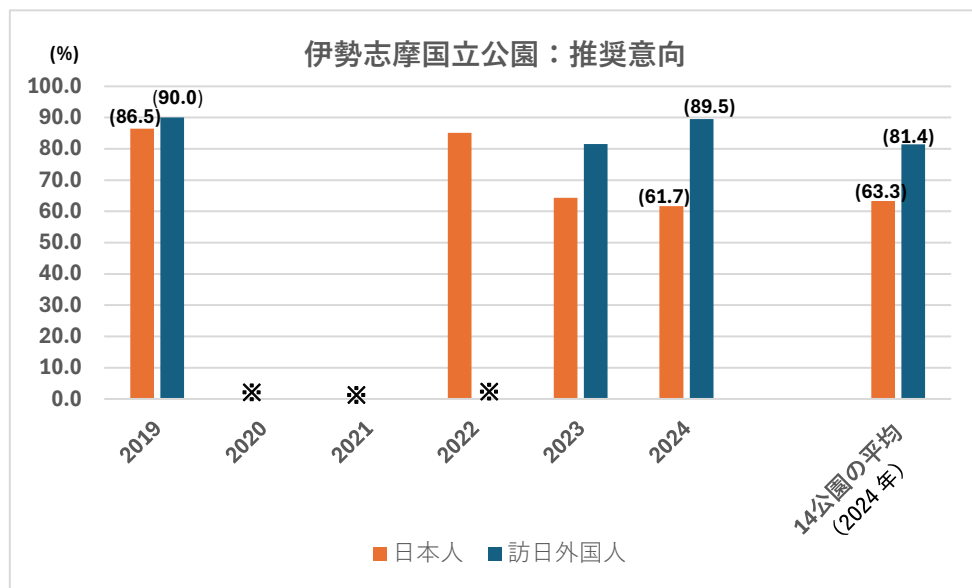
※2020,2021年はデータ取得不能、2022年は訪日外国人のデータ取得不能

出典：環境省 公園別カルテ（伊勢志摩国立公園）

伊勢志摩国立公園の再訪率（2024年）は、日本人・訪日外国人ともに高い水準となっています。日本人の再訪率は71.9%で、14公園の平均である64.5%を上回り、順位は2位でした。訪日外国人の再訪率は71.1%で、14公園平均の44.1%を大きく上回り、14公園中1位となっています。とくに訪日外国人については、2023年の18.4%から2024年には71.1%へと大幅に上昇しており、日本を訪れた多くの外国人旅行者が「また訪れたい」と感じている国立公園であることがうかがえます。

こうした高い評価は大いに評価すべき点であり、今後も日本人・訪日外国人の双方において、この高い再訪率を維持・向上させるための取組を継続していく必要があります。

(3) 推奨意向



※2020,2021年はデータ取得不能、2022年は訪日外国人のデータ取得不能

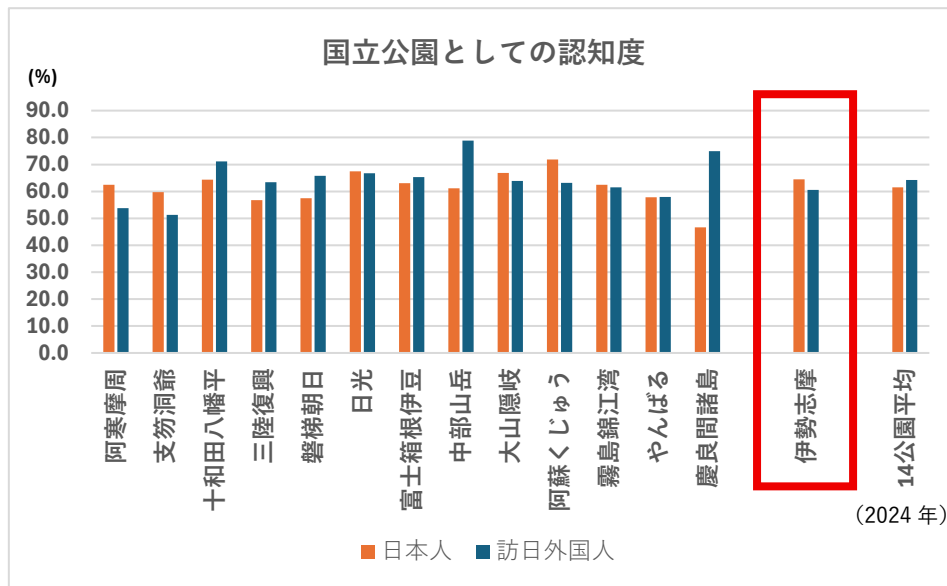
出典：環境省 公園別カルテ（伊勢志摩国立公園）

伊勢志摩国立公園における推奨意向（2024年）については、日本人では61.7%となり、14公園平均の63.3%を下回って8位という結果でした。一方、訪日外国人では89.5%と非常に高く、14公園平均の81.4%を上回り、順位も2位となっています。訪日外国人は満足度が高いだけでなく、友人・知人への推奨意向も高いことが特徴として表れています。

しかし、日本人については満足度自体が高いにもかかわらず、推奨意向が平均を下回っている点が課題といえます。この理由については、体験内容の印象、アクセスのしやすさ、地域のイメージ、情報発信の不足など、複数の要因が考えられます。

推奨意向は、質的な評価を示す重要な指標であり、地域のブランド力や口コミによる誘客にも大きく影響します。今後は、日本人・訪日外国人の双方において、推奨意向をより高い水準で維持・向上させる取組を進めていくことが求められます。

(4) 国立公園としての認知度



※2020,2021年はデータ取得不能、2022年は訪日外国人のデータ取得不能

出典：環境省 公園別カルテ（伊勢志摩国立公園）

伊勢志摩国立公園を訪れた人の国立公園としての認知度は、日本人・訪日外国人ともに高いとはいえません。特に訪日外国人の認知度は60.5%と14公園平均（64.2%）を下回り、14公園中11位となっています。日本人の認知度は平均を上回るものの、決して十分な水準とはいえません。

当公園の特色は、歴史・文化・人の営みと、里山・里海の自然とが織りなす人文景観にあります。こうした地域の特長を理解したうえで訪れてもらうことで、より深い魅力を感じ取ることができます。特に訪日外国人にとって伊勢神宮は、旅前にしっかりと情報を得て訪れることで、その価値や奥深さをより強く実感できる場所です。

伊勢志摩国立公園の魅力をもっと感じ取り、満足度の高い訪問者を増やすためには、訪れる場所が国立公園であること、そしてその背景にあるストーリーを旅前に伝える仕組みを強化する必要があります。また、旅前に当公園のストーリーを理解してもらうことは、訪問者の分散化や行動の多様化を促し、オーバーツーリズム対策としても有効であると考えられます。

2)-④ 市町単位での利用者数と宿泊者数

伊勢志摩国立公園全体の利用者数は、日本人旅行者・訪日外国人旅行者ともに、新型コロナウイルス感染症拡大以前の水準とほぼ同程度まで回復しています。しかし、市町単位で見ると、依然として十分に回復していない地域も存在しており、宿泊者数についても同様の傾向が見られます。

◆伊勢志摩国立公園における利用者数の推移（各エリア）

		2013年			2019年			2023年			2024年		
		日本人	イバ'ウツド'	計	日本人	イバ'ウツド'	計	日本人	イバ'ウツド'	計	日本人	イバ'ウツド'	計
伊勢市（伊勢神宮利 用者数）	内宮	8,808	42	8,850	6,296	74	6,370	4,791	64	4,855	4,929	85	5,014
	外宮	5,345	10	5,355	3,338	22	3,360	2,297	21	2,318	2,503	25	2,528
	小計	14,153	52	14,205	9,634	96	9,730	7,088	85	7,173	7,432	110	7,542
鳥羽市				4,786			4,236			3,909			4,154
志摩市				4,078			4,187			3,884			3,959
南伊勢町 ※1				268			271			194			
伊勢志摩国立公園 （環境省）				10,630		71	7,860		67	7,880		94	

（単位：千人）

※3 市1町のデータはそれぞれの市町の観光統計による。

※1：2023年の数字は2022年の結果。国立公園外も含む南伊勢町全域。

◆伊勢志摩国立公園における宿泊者数の推移（各エリア）

	2013年			2019年			2023年			2024年		
	日本人	イバ'ウツド'	計	日本人	イバ'ウツド'	計	日本人	イバ'ウツド'	計	日本人	イバ'ウツド'	計
伊勢市			608			770			838			866
鳥羽市	2,007	3.5	2,010	1,646	51	1,697	1,451	32	1,483	1,563	42	1,605
志摩市		-	1,558	1,467	48	1,515	1,373	33	1,406	1,391	33	1,424
南伊勢町 ※1			27			23			15			17
伊勢志摩国立公園（環境省）					89	2,966		53	2,675		56	2,839

（単位：千人）

※3 市1町のデータはそれぞれの市町の観光統計による。

※1：2023年の数字は2022年の結果。国立公園外も含む南伊勢町全域。

(2) SUP2025 の取組状況

「伊勢志摩国立公園 SUP2025」では、3つの視点からなる基本方針に基づき、重点施策・集中的に取り組む事項等のプロジェクトを定め、2021年より関係機関・関係団体等の連携のもと実施しました。計画された取組のうち、重点施策・集中的に取り組む事項については、着手済の取組が70%を超え、国立公園全域にわたって多数の取組が実施されました。特に重点的取組として実施した6つのプロジェクトの取組状況について、以下に整理します。

【SUP2025の基本方針】

- 視点1 上質な展望環境及び快適で安全な利用環境の整備
- 視点2 観光施設の磨き上げによるストーリー性を持った質の高い自然体験等の提供
- 視点3 人々の営みと自然が織りなす優れた景観の保全


【重点的な取組①～⑥の取組状況】

重点的な取組① ワークেশョンの推進

新型コロナウイルス感染症の影響で観光需要は大きく落ち込みましたが、自然の中で過ごしなが
テレワークを行うワークেশョン需要が一時的に高まり、Wi-Fi 環境や体験プログラムの整備、住民
と関係人口をつなぐ取組が行われました。

<代表的な取組>

- ・テレワーク環境を備えた宿泊施設と地域の魅力を活かした自然体験プログラム等を組み合わせた
ワークেশョンプランの造成（環境省、三重県、鳥羽市、志摩市、関係事業者）
- ・「働く」、「泊まる」、「遊ぶ」を一体とした新しい働き方の創出（三重県、鳥羽市、志摩市、関係事
業者）
- ・Wi-Fi 環境の整備（伊勢市、志摩市、南伊勢町）
- ・体験コンテンツの整備（伊勢市、鳥羽市、志摩市、南伊勢町、関係事業者）

取組紹介	ワークেশョンの推進（実施者：鳥羽市）
<p>➤ 鳥羽市ではワークেশョンを含む鳥羽の関係人口の増加を 目的として、鳥羽ファンポータルサイト『とぼる』と公式 Facebook『とぼり隊』において住民と関係人口の交流の場を 作成した。</p> <p>➤ また、令和4年度に開設した三重県鳥羽市の短期就労プラ ン紹介サイト『ワーキングホリデーat 鳥羽』を活用し、“国 立公園で暮らしながら働く”をテーマに情報発信の強化を 行った。</p>	

重点的な取組② 交通アクセス等の充実

伊勢神宮周辺の渋滞対策としてパーク＆バスライドやバス専用レーン、臨時駐車場の整備などが進められました。また、志摩市の「ぐるっと志摩周遊支援事業」などは、今後の二次交通改善の可能性を示す取組となっています。

<代表的な取組>

- ・ 空港等の交通拠点から伊勢志摩地域の主要交通拠点までのアクセス方法の充実（交通事業者）
- ・ タッチ決済サービスの導入（交通事業者）
- ・ ぐるっと志摩周遊支援事業（志摩市）
- ・ 自転車を安全で快適に利用できる環境づくりを推進（三重県）
- ・ 大型クルーズ船の受入環境の充実（鳥羽港クルーズ船誘致受入協議会）
- ・ 繁忙期のパーク＆バスライド（シャトルバス運行）（伊勢市）
- ・ 繁忙期のパーク＆シップライド（鳥羽市観光交通対策協議会）

取組紹介

繁忙期のパーク＆バスライド（シャトルバス運行）について

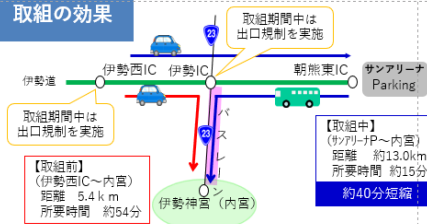
（実施者：伊勢地域観光交通対策協議会（国土交通省、伊勢市））

- 伊勢神宮へ向かう車両による交通渋滞を緩和するため、パーク＆バスライド等の実施、バス専用レーンの設置、ホームページ等による情報提供を実施。
- R8年初参り期間においてP&BR実施。約65台/日のシャトルバスが運行。計4日間(1/1~1/4)で14,592台(約4.8万人)が三重県営サンアリーナのP&BRを利用。伊勢神宮内宮周辺の渋滞軽減に寄与した。



【国道23号のバス専用レーンの状況】

取組の効果



取組紹介

ぐるっと志摩周遊支援事業について（実施者：志摩市）

- 公共交通が行き届いていない主要スポットへの効率的な移動手段の確立。
- 観光案内付きバスを運行することで、移動時間の観光コンテツ化による観光案の周遊性・満足度・観光消費額の向上を図る。



▲横山 VIEW タクシー



▲しまる号（周遊バス）

重点的な取組③ 拠点施設の機能強化

拠点施設において、職員の対応能力の強化、多言語対応、ユニバーサルデザイン化など快適な利用環境を整備しました。

<代表的な取組>

- ・ 宿泊施設や観光施設、公衆トイレ等のユニバーサルデザイン化（三重県、各市町）
- ・ 伊勢志摩バリアフリーツアーセンターのHP改修（三重県）
- ・ 利便性・安全性の向上（バリアフリー対応）（三重県）
- ・ 安乗崎灯台資料館館内リニューアル（志摩市）
- ・ 「創造の森 横山」における遊歩道改修（三重県、志摩市）
- ・ 上質な展望環境の整備（環境省、三重県、各市町）
- ・ 桐垣展望台の転落防止柵の改修（三重県）
- ・ 国立公園リーフレットの多言語化（環境省）
- ・ 観光案内所等の受入れ体制強化（各市町、各市町観光協会、伊勢志摩観光コンベンション機構）
- ・ 看板整備と看板の多言語化（環境省、三重県、各市町、国交省）
- ・ 横山ビジターセンターの展示改修（環境省）

取組紹介

横山ビジターセンターの改修（実施者：環境省）

- 公園内の自然や人の営みについて分かりやすく解説するデジタル展示を整備。
- 環境配慮型の受入環境づくりを進めるため、プラスチックごみの削減を目的としたマイボトル利用の推進として給水機を設置。



▲デジタル展示（4面シアター）



▲給水機

重点的な取組④ 景観改善

展望地等において眺望を阻害している樹木の伐採、景観や利用環境を阻害している海岸ゴミの清掃等を行いました。

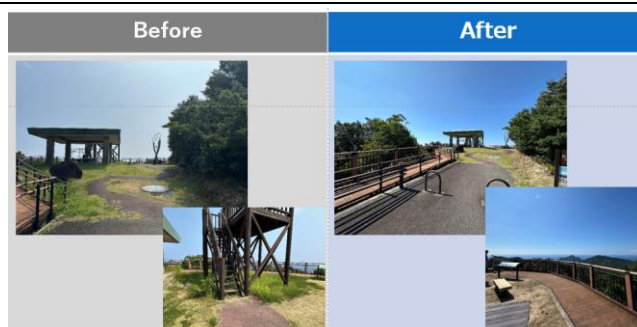
<代表的な取組>

- ・ 漁村・海女集落地区等の重点地区指定に向けた漁村地域への働きかけ（鳥羽市）
- ・ 各展望台の景観改善（環境省、三重県、各市町）
- ・ 景観計画を策定（鳥羽市）
- ・ 既存観光拠点の再生・高付加価値化推進事業（補助事業）（国土交通省）
- ・ 地域一体となった観光地の再生・観光サービスの高付加価値化事業（補助事業）（国土交通省）
- ・ 三重県屋外広告物条例に基づく違反屋外広告物の是正指導（三重県）
- ・ 電線類の地中埋設化（三重県、伊勢市）
- ・ 空き家対策（三重県、各市町）
- ・ 海岸ゴミ清掃（環境省、三重県、各市町）

取組紹介

各展望台における通景伐採（実施者：南伊勢町）

- 自然環境を訴求する拠点の一つとして、各展望台（見江島展望台、たちばな展望台、南海展望台、中ノ磯展望台）の景観維持のための草刈り・枝払いの実施。
- 環境省 伊勢志摩国立公園事務所事業による修景伐採事業（R6 実施）による景観維持となる魅力の向上。



▲見江島（みえしま）展望台

重点的な取組⑤ エコツーリズムの推進

伊勢志摩国立公園エコツーリズム推進協議会にて策定された「伊勢志摩国立公園自然体験促進計画」に基づき、地域全体でエコツーリズムに取り組むことで、より質の高い体験の提供や、ガイドの育成を行いました。

<代表的な取組>

- ・「伊勢志摩国立公園自然体験活動促進計画」環境大臣認定（伊勢志摩国立公園エコツーリズム推進協議会）
- ・伊勢おもてなしヘルパーサービス拡充の取組を実施（伊勢市）
- ・大型客船の寄港対応を実施し、消費拡大と乗船客の満足度を向上（鳥羽港クルーズ船誘致受入協議会）
- ・新たなツアー造成や英語のガイド講習の実施（鳥羽市、民間事業者）
- ・エコソーカフェ（鳥羽市）
- ・登山を起点として環境整備の拡充（南伊勢町）
- ・「巨大マグロと泳ぐ」体験ツアー（南伊勢町）
- ・Happy Birthday! 伊勢志摩国立公園イベントの開催（伊勢志摩国立公園協会）
- ・持続可能で質の高いプログラム提供を面的に強化するための研修会やセミナー等の開催（伊勢志摩国立公園エコツーリズム推進協議会）
- ・横山ビジターセンター自然観察会の実施（環境省、伊勢志摩国立公園自然ふれあい推進協議会）
- ・アンペライを利用した草履作りと販売（環境省、伊勢志摩国立公園自然ふれあい推進協議会）

取組紹介

伊勢志摩国立公園バリアフリーアドベンチャートラベル展開事業
（実施者：伊勢志摩国立公園エコツーリズム推進協議会）

- 伊勢志摩国立公園エコツーリズム推進協議会では、令和6年度環境省 国立公園アドベンチャートラベル展開事業を活用し、「伊勢志摩国立公園バリアフリーアドベンチャートラベル展開事業」を実施した。
- 本国立公園がターゲットとする欧米の富裕層にはシニア層が多いことを踏まえ、比較的高単価のバリアフリーATプログラムの提供に向けた取組を実施した。





▲鯛の絶景ツアー 4感バージョン

重点的な取組⑥ 国立公園への誘導・プロモーション

SNS や海外メディアを活用した情報発信、旅行博への出展、旅行会社との商談会など国内外に向けたプロモーションを実施しました。

<代表的な取組>

- ・「ワーキングホリデーat 鳥羽」を活用し、情報発信の強化（鳥羽市）
- ・SNS、動画配信サービス等を効果的に活用した情報発信（伊勢志摩観光コンベンション機構、各市町）
- ・地域観光魅力向上事業（補助事業）（国土交通省）
- ・広域周遊促進のための観光地域支援事業（補助事業）（国土交通省）
- ・アドベンチャートラベル展開事業で作成したコンテンツの SNS による情報発信（伊勢志摩国立公園エコツーリズム推進協議会）
- ・伊勢志摩エリアへの誘客を促す交通広告の展開（交通事業者）
- ・ライフスタイル雑誌へのタイアップ記事の掲載（三重県）
- ・海外 OTA の活用や JNTO との連携（三重県）
- ・SNS やテレビ等のメディアを通じた情報発信（三重県）
- ・インフルエンサー、メディア等を招聘したファミトリップを実施（環境省、伊勢志摩観光コンベンション機構）

取組紹介	SNS やプロモーション（実施者：各団体）	
<ul style="list-style-type: none"> ➤ 三重県や横山 VC の公式 Instagram、公園管理事務所 YouTube 等で情報発信。 ➤ 飲食店や宿泊施設に国立公園を理解し、観光客への説明に活用してもらうためのガイドブックを配布（R3） ➤ 3市1町それぞれで SNS による情報発信を強化。特に南伊勢町のInstagramのフォロワー数は人口を超える11,500人となり、Meta 公式ホームページに『政府機関や非営利団体の成功事例』として掲載された（R7） 	 <p>▲知りたい！伝えたい！ 私たちの伊勢志摩国立公園</p>	 <p>▲Meta に掲載</p>

(3)現状の課題

2024 年度に実施した地域協議会構成員およびアドバイザーへのアンケートでは、過去 10～20 年を振り返り、良い結果が得られたと評価された取組として、以下の項目が挙げられました。

- ・ エコツーリズムの推進
- ・ 利用拠点施設の機能強化・充実
- ・ 海女文化の保存・継承
- ・ 広域連携の取組
- ・ 景観改善

これらの取組は、SUP2030 においても引き続き推進していく必要があると考えられます。

一方、同アンケートで過去 10～20 年の満足度を尋ねたところ、自然資源の状態、人文資源の状態、観光施設・宿泊施設、運輸交通関係、自然文化資源の利用状況のいずれにおいても、「満足」と「やや満足」の合計が 50%に届きませんでした。特に、人文資源の状態と運輸交通関係については満足度が低い結果となりました。

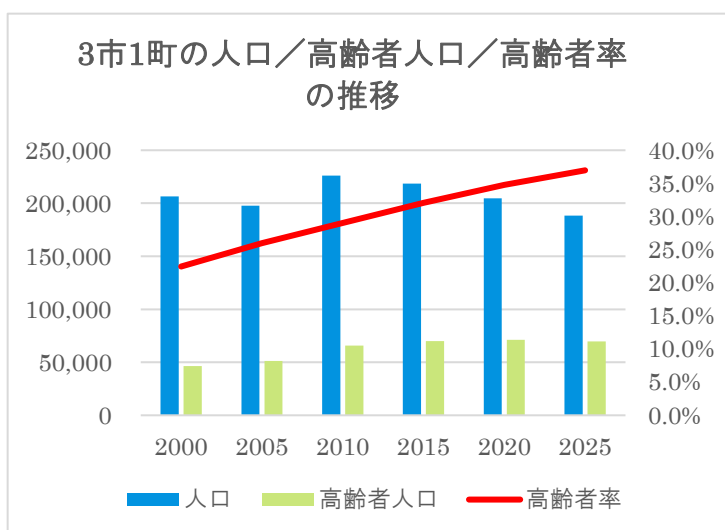
これらの結果を踏まえ、2025 年度に実施した地域協議会の会合および構成員へのヒアリングでは、当公園の課題として以下の点が挙げられました。

◆自然資源に関する課題

- ・ 藻場の保護・再生は、当公園における最重要の自然環境課題である。
- ・ 磯焼けや温暖化などにより海域環境が悪化しており、対策が急務である。

◆人文資源に関する課題

- ・ 高齢化や人口減少に伴う後継者不足により、祭りや海女文化などの伝統文化の継承が危機に瀕している。
- ・ 若者の地元離れが進む中、地域に根差した人材育成と定着、幼少期の自然体験や地元学の導入による価値認識の醸成が課題である。



(参考資料)

伊勢市/鳥羽市/志摩市/南伊勢町(3市1町)の人口／高齢者人口／高齢者人口比率の推移

* 高齢者 = 65 歳以上

- 3市1町の高齢化率は 37.0%で全国平均 29.6%に比べ高くなっている。
- 伊勢市を除く 2市1町でデータを取ると、2000年と比べ、人口は 35,000 人減、高齢者数は 4,400 人増で 2025 年の高齢者率は 43.1%となる。

◆受入体制・施設に関する課題

- 地域住民でさえ伊勢志摩国立公園の価値を十分に理解しておらず、来訪者に自然・文化資源を伝える意識が弱いことから、認知度向上が課題である。
- 自然や文化の本質的な魅力を伝える仕組みが不足しており、観光との連携も弱い。
- 体験型コンテンツに関しては、参加者数や経済効果を把握する仕組みが未整備である。
- 行政と民間が連携し、実効性のある体験プログラムを構築することが求められる。
- インバウンド対応は他地域に比べて遅れており、受入に抵抗感を持つ事業者も存在する。
- ノウハウ不足、体験メニューの少なさ、通訳不足など、ソフト面の課題も大きい。
- 伊勢神宮への参拝の多くが日帰りであるため、いかに南部地域へ周遊を促すかが課題である。
- 施設の老朽化が進んでおり、展望施設などの改修が急務である。
- 式年遷宮を控え、将来的なオーバーツーリズムを未然に防止する対策が必要である。

◆二次交通・アクセスに関する課題

- バスドライバー不足や夕方・夜間のタクシー不足が深刻である。
- ジャパンレールパス等を含む交通体系の改善が求められる。
- 二次交通が存在しないアクセス困難地域が多く、地域全体の周遊性確保が課題である。
- 公共交通と観光向け二次交通のすみわけも検討すべき課題である。
- 移動手段の不足も地域の魅力発信を妨げている。

◆SUP に関して（国立公園運営の評価と改善）

- 伊勢志摩国立公園のパフォーマンスを評価する指標や目標数値を設定する必要がある。
- 取組を段階的にステップアップさせる仕組みづくりが求められる。

【総合的な課題認識と方向性】

私有地が約 96%を占め、人と自然が密接に関わりながら暮らし、歴史や文化を育んできた伊勢志摩国立公園ならではの課題として、人文資源に関する意見が特に多く寄せられました。これらの課題は、公園の特性を踏まえたうえで、優先的に取り組むべき重要なテーマであるといえます。なかでも人口減少や高齢化に伴う担い手の減少は、当国立公園すなわちこの地域にとって最も深刻な課題とも言えます。SUP2030 で直接人口問題に取り組むわけではありませんが、私たちの取り組みにより、国立公園の魅力・ブランド力が向上して、保護と利用の好循環が生まれ、優れた自然が守られ地域活性化も図られるようになることが、少しでも良い影響を与えることにつながることを念頭に SUP2030 に取り組んでいきます。

- 指定 100 周年を見据え、伊勢志摩国立公園ビジョンの実現という課題に継続的に取り組む。
- 伊勢志摩国立公園の上質な発展に向けて、効果的なプロモーションを実行し、公園全体の人の流れを創出しながら地域資源の活用を促進する。
- また、地域住民が国立公園の価値を理解し、誇りをもって活動できるような施策を展開し、持続可能な地域づくりを進める。
- 多様な人々にとって価値のある国立公園を創出する。

2. コンセプトとビジョン、基本方針

(1)伊勢志摩国立公園のコンセプト

悠久の歴史を刻む伊勢神宮 人々の営みと自然が織りなす里山里海

(コンセプトの解説)

伊勢志摩国立公園に位置する伊勢神宮では、1300年に及ぶ式年遷宮^{しきねんせんぐう}の歴史があり、宮域林^{きゅういきりん}を管理しながら遷宮^{せんぐう}に必要な材を確保するとともに、20年に一度、社殿を新しく建て替え、奉納する御装束神宝を新しく作り替えることで、常にみずみずしい姿を保つとともに、自然に根ざした伝統・技術の保存・伝承が図られてきました。また、3000年の歴史を持つともいわれる海女漁や、リアス海岸と養殖筏の景観に代表されるように、自然の恩恵を深く理解し、自然と調和した営みの中で育まれた里山里海の景観が伊勢志摩国立公園の最大の魅力です。

(2)伊勢志摩国立公園ビジョン

つなげるわ、ひろげるわ、未来につなごう伊勢志摩国立公園

「私（個性）」「輪（つながり）」「和（調和）」の三つの「わ」が重なり合い、新たな未来を創る姿を表現しました。

1. 私が輝く

住む人も訪れる人も、一人ひとりが輝き、周囲を尊重しながら挑戦し成長する国立公園を目指します。「私らしさ」が調和の中で最大限に発揮される国立公園を目指します。

2. 人と自然の輪がつながる

人々をつなぎ、人と自然が共に生きる喜びの「輪」を広げます。自然への敬意を忘れず、共存する意識を高めます。多様な人々と自然の交流により希望ある未来を創造する国立公園を目指します。

3. 地域の誇りと和が育まれる

受け継がれる文化、自然、歴史を大切に守り、地域一体となって未来へと伝えます。「変わらずに、変わり続ける」精神を基盤に、「心がかえりたい」国立公園を目指します。

○伊勢志摩国立公園ビジョンとは？

- 伊勢志摩国立公園の10年後・20年後の将来像。目指すべきゴール。未来のあるべき姿。
- 伊勢志摩国立公園の方向性を決定づけるもの。
- 具体的には、どのような状態を実現したいのか、どんな価値を提供したいのかを明確にするもの。
- 伊勢志摩国立公園に関わる全ての人が、共通の目標に向かって進むための指針、意思決定の基盤となります。

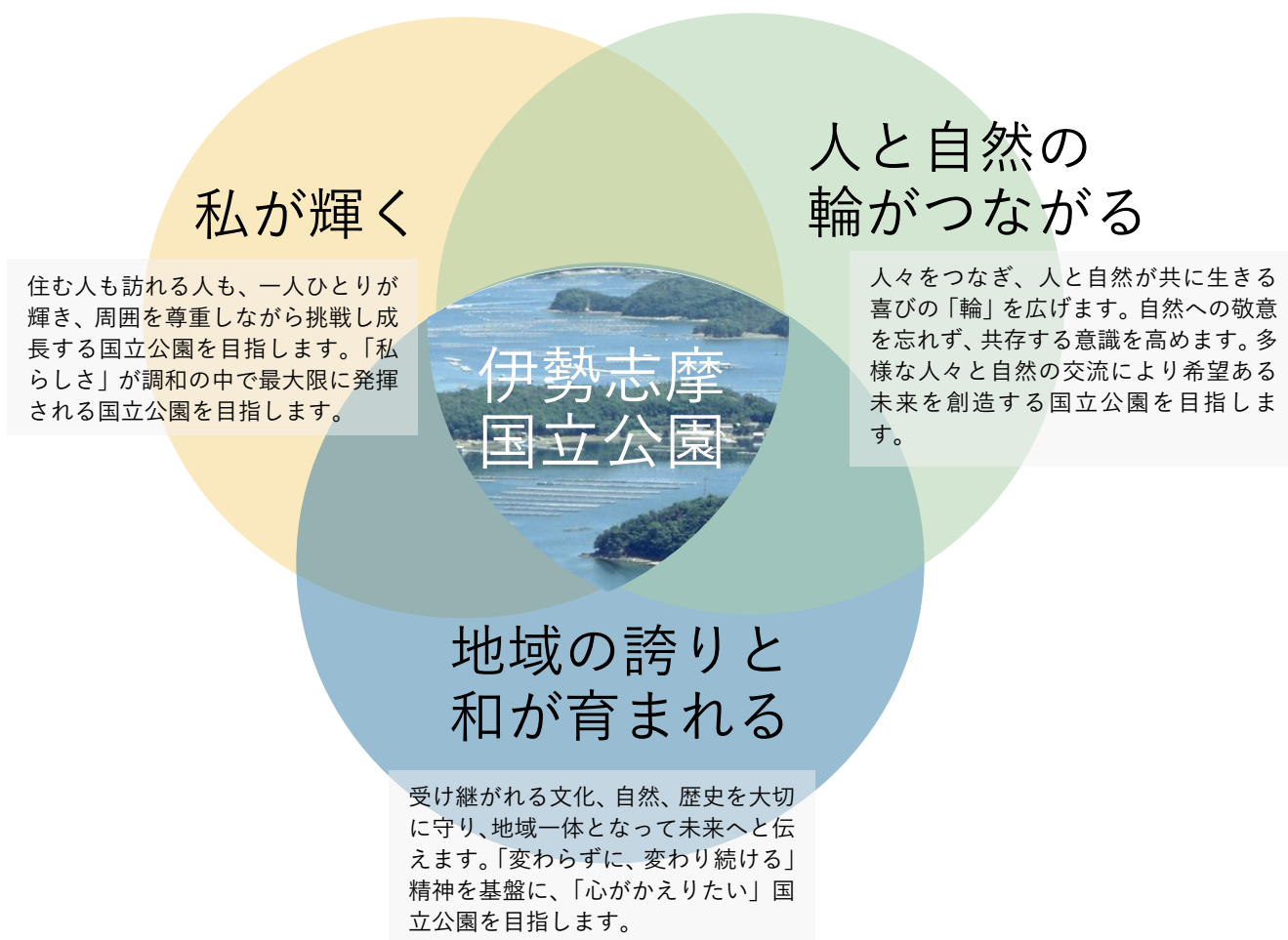
○～伊勢志摩国立公園ビジョンに込められたビジョン検討メンバーの思い～

「わが」には「私の」という意味があります。そこから、「私」だけでなく他の人も尊重し、「わが」が2つにつながって共に輝く「わがわが」にしようという希望と覚悟の気持ちを、このビジョンに込めました。

○「伊勢志摩国立公園ビジョン」決定の経緯

伊勢志摩国立公園は、表情豊かな海岸地形と常緑広葉樹の森、そして、自然と人がともに生きる文化が魅力の、志摩半島一帯に広がる国立公園です。我が国において13番目、戦後すぐに国立公園に指定され、令和8年には指定80周年を迎えます。そこで、指定90・100周年を見据え、伊勢志摩の未来を考え各分野で取組を行っており、伊勢志摩の10年・20年後を担う方々に検討に加わっていただき、令和7年3月、伊勢志摩国立公園の目指すべき将来像としてこの「伊勢志摩国立公園ビジョン」を策定しました。

本SUP2030は、当該ビジョンを実現するための行動計画です。ビジョンの実現を目指し、SUP2030をもとに取組を展開していきます。伊勢志摩国立公園に関わる全ての方々が、私たちとともにこの「伊勢志摩国立公園ビジョン」の実現を目指して行動する事を期待しています。



▲伊勢志摩国立公園ビジョンのイメージ

○三つの「わ」を創りだすために必要な取組

- 1) 多様な人々にとって価値のある国立公園の創出
- 2) 深掘りした価値のエコツーリズムの推進
- 3) 広域連携（受入体制）
- 4) 広域連携（プロモーション）

これらの取組から生み出されるプロジェクトが有機的複雑に絡まりあって機能する事で、3つの「わ」が形成されます。

(3)SUP2030 の基本方針

伊勢志摩国立公園の優れた景観は、自然と人との長い関わりの中で形成され、先人が守り育ててきた地域の重要な財産です。この財産を将来にわたり継承していくためには、地域住民のみならず、国内旅行者や訪日外国人を含む多様な利用者が、その価値を理解し共感することが不可欠です。加えて、伊勢志摩国立公園がもたらす価値や経済的効果を広く認識してもらい、保全への意識を高めることも求められています。

一方で、これまでの取組にもかかわらず、多くの課題が依然として残されています。多くの方が暮らす当国立公園で、「伊勢志摩国立公園ビジョン」を実現し、本プログラムを地域に根付いた実効性のある計画としていくためには、地域住民の主体的な関与が欠かせません。住民が主体性を発揮し、国立公園に指定された市町に住むことへの意義と誇りを持てるよう、官民が連携して意識醸成を図るとともに、伊勢志摩国立公園の価値と魅力の向上に地域全体で取り組む必要があります。

以上を踏まえ、伊勢志摩国立公園を世界水準のナショナルパークへと発展させるため、3つの視点からなる基本方針を定めます。

(視点1) 多様な人々と国立公園をつなぐ

伊勢志摩国立公園は、インクルーシブな視点を重視し、誰もが安心して楽しめる場の提供を目指します。年齢、国籍、障がいの有無、性別の違いなど、多様性を前提とした受入環境の整備と情報提供の充実を進め、多様な来訪者にとっても分かりやすく利用しやすい公園を創ります。

また、地域住民が伊勢志摩国立公園の魅力をより深く理解し、自然や文化を「地域の誇り」として再認識できる機会を広げます。こうした取組を通じて、次世代の担い手育成や地域で暮らし続けられる環境づくりにつなげます。

(視点2) 地域の自然や、自然と共生する文化を将来へ受け継ぐ

伊勢志摩国立公園の魅力は、豊かな自然と、それと共に育まれてきた地域文化にあります。この魅力をより深く理解できるよう、自然・文化資源の価値の深掘りを行い、質の高い体験を提供します。

また、公園を利用する地域住民・来訪者の双方が、自然環境を損なうことなく持続可能な関わり方を実践できる仕組みづくりを進め、地域が誇る自然と文化を「守りながら活かす」取組を推進します。

こうした継続的な取組を通じて、伊勢志摩国立公園は「変わらずに変わり続ける」地域の価値を将来へ継承していきます。

(視点3) 地域の実態への柔軟な対応と将来ビジョンの実現を両立する”ステップアッププログラム”

現状の課題には短期的に対応しつつ、将来を見据えた中長期的な取組を組み合わせる事で、柔軟かつ効果的なマネジメントを進めます。特に、データや社会動向を踏まえて社会環境や旅行ニーズの変化の兆しを捉え、未来へ向けた施策の質を高めます。

さらに、伊勢志摩国立公園外の市町や関係団体、観光事業者なども含めて、広域でシームレスな連携を強化し、国立公園指定100周年を見据えたプロジェクトを展開します。

3. ターゲットとアウトカム指標・アウトプット指標

(1) ターゲット

SUP2030 では、従来の「観光客・訪問者中心」のターゲット設定を見直し、国立公園で暮らす人・働く人・訪れる人すべてが価値の担い手となるという視点から、SUP2025 より広い層をターゲットとして捉え直します。

伊勢志摩国立公園は、鳥羽市・志摩市全域と伊勢市・南伊勢町の約 60% を占め、日常生活の場と国立公園が重なり合う特性を持ち、区域の約 96% が私有地であることから、多様な立場の人々が公園と深く関わっています。自然景観や歴史資産だけでなく、地域で暮らす人々の営みそのものが、国立公園を形成する重要な要素です。

また、誰もが国立公園を楽しめる環境を整備することは、公園の価値を広く共有し、将来へと引き継ぐために不可欠です。伊勢志摩国立公園はこれまでバリアフリー化を積極的に進めてきた実績があり、今後も年齢・国籍・障がいの有無・性別の違いなどを問わず、誰もが安心して訪れることができる公園づくりを推進していきます。

こうした考えに基づき、SUP2030 のターゲットは以下の 3 つから構成します。

1) 地域で暮らす人々

伊勢志摩国立公園は、日常生活の場が公園区域と重なるという特徴を持ち、多くの住民が公園内で暮らしています。しかし、公園内で生活している事実を意識していない人も少なくありません。また、公園の優れた価値に気付いていなかったり、隣の地域の状況を十分に理解していなかったりする人もいます。

SUP2030 では、地域で暮らす人々が公園の魅力再認識し、地域の魅力の語り手・未来の担い手として育ち、活躍することを期待し、地域で暮らす人々をターゲットと考えます。特に、地域の伝統や文化を継承し、次世代に受け継ぐ役割を担う子ども達が、地域への誇りを持てるような活動を推進します。



2) 訪日外国人

伊勢志摩国立公園の訪日外国人比率は 1% 弱（2023 年）と低く、これからの伸びしろが期待できます。2033 年には伊勢神宮の式年遷宮を控え、当国立公園は、今後国際的にも注目度が高まることが予想されます。この機会を捉え、旅前情報の発信強化、多言語化、価値の「背景まで伝える」プロモーションを行うことで、訪日外国人の誘致を行います。また、中部エリアの重要な空の玄関口としての中部国際空港（セントレア）の利用が低迷する中、空港利用者の増加に貢献し、同時に訪日外国人の誘客につなげます。

ターゲットとする外国人旅行者は、特定の国や地域に限定せず、伊勢志摩国立公園の歴史・自然・文化・人々の営みを深く味わうことを目的とする旅行者とします。FIT（個人旅行）からグループ旅行まで、多様な旅行スタイルに対応した受入体制を整えます。

3) 障がいのある方やLGBTQを含む、多様な背景を持つ人々

SUP2030 では、1) 地域の人、2) 訪日外国人を含みつつ、さらに広い概念として「障がいのある方やLGBTQを含む、多様な背景を持つ人々」をターゲットに加えます。ここでいう「多様な背景を持つ人々」とは、年齢性別、障がいの有無、経済状況を問わず、FIT、グループ旅行者など、きわめて広い概念です。



(2)アウトカム指標・アウトプット指標

伊勢志摩国立公園は、人と自然、産業、暮らしが一体となって形成される地域であり、そこでの体験価値の向上と滞在環境の充実を図ることが本プロジェクトの中核です。こうした取組によって創出される魅力が来訪者にどのように伝わり、来訪・滞在・評価といった行動や意識の変化につながっているかを把握するため、観光客数、認知度、満足度、推奨度、インバウンド・国内客の動向といったアウトプット指標およびアウトカム指標を設定します。

一方で、今後はこれらの指標に加え、地域の取組が将来に向けた好循環を生み出しているかという観点から、その成果を適切に捉える新たな指標の検討も進めていきます。

また、必要に応じ指標、指標の目標値の見直しを行い順応的な管理を進めます。

●アウトカム指標：施策・事業の実施により発生する効果・成果を表す指標

アウトカム指標		2024年実績	2030年目標	
質	伊勢志摩国立公園 満足度（日本人）	79.4%	➡	85.7% *1
	伊勢志摩国立公園 満足度（訪日外国人）	73.7%	➡	89.5% *2
	伊勢志摩国立公園 認知度（日本人）	61.1%	➡	71.9% *3
	伊勢志摩国立公園 認知度（訪日外国人）	60.5%	➡	78.9% *4
	伊勢志摩国立公園 推奨意向（日本人）	61.7%	➡	95.2% *5
	伊勢志摩国立公園 推奨意向（訪日外国人）	89.5%	➡	94.4% *6
	伊勢志摩国立公園内 平均宿泊数（日本人）	1.2泊	➡	2.3泊 *7
	伊勢志摩国立公園内 平均宿泊数（訪日外国人）	3.1泊	➡	3.2泊 *8
量	伊勢志摩国立公園 利用者数(1~12月)	788万人※	➡	820万人 *9
	伊勢志摩国立公園 利用者数（訪日外国人）（1~12月）	9.4万人	➡	35.7万人 *10

※伊勢志摩国立公園利用者数のみ 2023年のデータ

(参考)

*1: 満足度は、2018年以降における当国立公園の過去最高値を目指すこととするが、日本人満足度は直近2024年の79.4%が最高値だった。そのため、コロナ後の2022年から2024年までに2年で6.3%増加したこと、満足度の上昇率は80%を超えると鈍化すると考えられることを踏まえ、2024年から6.3ポイント増加の85.7%を目標とした。

- *2: 2018 年以降で、伊勢志摩国立公園において訪日外国人の満足度が最も高かったのは 2018 年の 89.5%だった。そのため当該数値を訪日外国人の満足度の目標とした。
- *3: 認知度は、他の国立公園（前述の 14 公園）の過去最高値を目指すこととし、日本人の認知度は 2024 年 1 位 阿蘇くじゅう国立公園の 71.9%を目標とした。
- *4: 訪日外国人の認知度は、14 公園中 2024 年の 1 位、中部山岳国立公園の 78.9%を目標とした。
- *5: 推奨意向は、2018 年以降における当国立公園の過去最高値を目指すこととし、日本人の推奨意向が最も高かった 2018 年の 95.2%を目標とした。
- *6: 2018 年以降で伊勢志摩国立公園において訪日外国人の推奨意向が最も高かったのは、2018 年の 94.4%。そのため当該数値を訪日外国人の推奨意向の目標とした。
- *7: 平均宿泊数は、2024 年の 14 公園データの最高値を目指すこととし、2024 年の日本人平均宿泊数 1 位のやんばる国立公園及び慶良間諸島国立公園の 2.3 泊を目標とした。
- *8: 2024 年の訪日外国人平均宿泊数 1 位は伊勢志摩国立公園。そのため平均宿泊数 0.1 ポイント増加を目指す。
- *9: 前回の式年遷宮の 3 年前（2010 年）の伊勢志摩国立公園利用者数は 820 万人。前回の式年遷宮の年（2013 年）の伊勢志摩国立公園利用者数は 1,063 万人。
- *10: 2026 年の三重県の訪日外国人延べ宿泊数目標は 45.4 万人で、全延べ宿泊数目標に対し 4.36%。そこで、2030 年の伊勢志摩国立公園の全利用者数目標 820 万人の 4.36%、35.7 万人を 2030 年の伊勢志摩国立公園の訪日外国人利用者数の目標とした。宿泊者数と利用者数とで指標が異なるものの近い指標としてこれを採用した。

●アウトプット指標：事業を実施することによって直接発生した成果物・事業量

アウトプット指標		
項目	活動指標	
具 体 的 な ア ク シ ョ ン	①多様な人々にとって価値のある国立公園の創出	修景伐採の実施箇所数 伊勢志摩国立公園エコツーリズム推進協議会のエコツアーへの訪日外国人参加者数 受入配慮情報の公開事業者数（体験事業者、宿泊事業者、観光施設別）
	②深掘りした価値を伝えるエコツーリズムの推進	伊勢志摩国立公園エコツーリズム推進協議会のエコツアー参加者数
	③広域連携の促進（受入体制、プロモーション）	伊勢志摩／吉野熊野両国立公園を訪問した利用者の数 三重県・各市町・横山 VC の相互フォローを 100%にしたうえでの SNS フォロワー数

●伊勢志摩国立公園の個別の目標・指標

2026 年度の事業で地域特性を生かした評価指標を構築します。

4. プロジェクトの実施

(1) 重点施策・集中的に取り組む事項

SUP2030 では、現状分析および基本方針を踏まえ、国立公園ビジョンの実現に向け、多様な人々にとって価値のある国立公園創出の土台作りのために、以下の取組を通じて各々のプロジェクトを実施します。

1) 多様な人々にとって価値のある国立公園の創出

多様な人々にとっての価値ある国立公園の創出とは、「多様な人々に対応する多様な価値の深掘り」です。

国立公園内に暮らす人々や、国立公園で働く人々がその価値を深く理解し、誇りを持って関わり続けられるよう、地域とのつながりを強化していきます。地元の知恵や声を大切にしながら、ともに伊勢志摩公園を守り、育てていく基盤づくりを進めていきます。

また、高齢者、若者、障がいのある方、ファミリー、グループ旅行者、個人旅行者（FIT）、インバウンド、富裕層、低予算での旅行者など、多様な来訪者がそれぞれのスタイルで国立公園を楽しめる、あるいは活用する仕組みや環境づくりを進めます。

2) 深掘りした価値を伝えるエコツーリズムの推進

国立公園をより深く楽しんでいただくためには、単なる体験の提供にとどまらず、地域資源の価値を来訪者に的確に伝える高付加価値なコンテンツの創出が必要です。当公園では、地域の自然・文化・歴史・暮らしといった多様な資源を「深掘り」したエコツーリズムを推進します。そのために、その本質的な価値や背景にあるストーリーを伝える事が出来る人材の育成に努めます。

また、「伊勢志摩国立公園自然体験促進計画」に基づき、来訪者の利便性や安全性の確保と、地域固有の魅力の深化との両立を図ります。

これにより、保全と利用の好循環を創出し、地域の持続可能性と観光価値の向上を同時に実現します。

さらに来訪者に対しては、単なる体験消費と自然や文化の保護への意識の醸成にとどまらず、自らもその担い手として地域貢献に参加できる機会の創出を行っていきます。

*AAT（アクセシブルアドベンチャーツーリズム）に関して

これまで、障がいのある方々にもエコツアーを安心して楽しんでいただけるよう、事業者同士が連携しながらサポート体制の整備を進めてきました。今後はその取組を発展させ、一人ひとりの「やってみよう」という思いに寄り添いながら、伊勢志摩国立公園で多様な体験に挑戦できる機会を広げていきます。地域のガイドや関係事業者が協力し、必要な配慮や支援のあり方を共有・工夫することで、障がいの有無にかかわらず、それぞれの希望や可能性に応じた体験が実現できる体制づくりを進めます。誰もが自然の中で自分らしく過ごし、達成感や喜びを感じられるナショナルパークを目指します。

*利用と保護

エコツーリズムの推進により新たな観光資源が見いだされる一方で、無秩序な拡大はオーバーツーリズムにつながるおそれがあります。本地域におけるオーバーツーリズムとは、単に来訪者数の増加や一時的な混雑を指すものではなく、来訪者の利用が地域資源の本来の価値や機能、さらには地域住民の暮らしや生業とのバランスを損なう状態を指します。

例えば、来訪者が地域の風景や営みを、ゆとりをもって楽しむ範囲を超え、日常的な生産活動や生活動線に支障を来すような状況は、本来の魅力を損なうものであり、適切な利用の範囲を逸脱した状態と捉えます。

このため、これを当然の成り行きとせず、地域資源を観光資源として活かす初期段階からその兆しを的確に把握し、地域の特性に応じた受入容量や利用のあり方を検討します。地域の価値を守りながら適切に活かすためのルールづくりやマネジメントを行い、保全と利用のバランスがとれた持続可能な仕組みの構築を進めます。

3) 広域連携 -受入体制-

広域的な連携を強化し、国立公園区域の内外にとらわれず、周辺エリアの民間事業者や関係団体とも協働した受入体制の充実を図ります。

自治体間・部局間の連携を深め、行政の縦割りを超えた情報共有と役割分担により、地域全体で一体感のある観光推進体制を構築します。

地域資源や体験プログラムを面的につなぎ、移動・案内・情報発信を含めたシームレスな観光環境を整えることで、エリア全体の魅力向上を目指します。

4) 広域連携 -プロモーション-

関係事業者・自治体による広域連携を基盤に、吉野熊野国立公園や世界遺産熊野古道など伊勢志摩国立公園外との連携を強化し、多様な来訪者層を見据えた新たな広域観光ルートを提案します。

伊勢志摩・吉野熊野両公園の自然・文化資源を組み合わせた広域プロモーションを展開し、インバウンドを含む幅広い来訪者に伊勢志摩国立公園ならではの価値を効果的に発信します。

空港や鉄道などの広域交通と連携し、多言語対応やアクセシビリティの向上を図ることで、誰もが安心して周遊できるシームレスな受入環境が整備されている事をプロモーションし、新規利用者の増加を図ります。

地域資源や体験プログラムを面的につなぎプロモーションをすることで、当国立公園の新たな魅力の発信を図り、滞在日数の増加に努めます。

5) 指定 100 周年に向けた目標の設定と予算の確保

2046年の伊勢志摩国立公園指定100周年という節目に向けて、「伊勢志摩国立公園ビジョン」【つなげるわ、ひろげるわ、未来につなごう伊勢志摩国立公園】の実現に向けた歩みを加速させます。各自治体や参画団体は、SUP（戦略的アクションプラン）に基づき中期的な目標を掲げ、必要な予算を確保したうえで、具体的な事業を段階的に始動します。

6) 地域特性を生かした「伊勢志摩モデル」の評価指標構築

成果を踏まえ、今後は伊勢志摩国立公園としての強みや特色をよりの確に捉える評価のあり方を検討します。

地域資源が適切に守られているか、来訪者がその価値に満足しているか、先進的に取り組んできたアクセシブルアドベンチャーツーリズムがどのような成果を上げているかなど、地域の実情に即した視点から指標を設定します。

あわせて、客観的かつ継続的に測定可能な指標とすることを前提に、評価項目と測定手法を関係者で共有・検討し、実効性のある評価体系の構築を進めます。

(2)プロジェクト実施案【参考】

伊勢志摩国立公園地域協議会幹事会の構成員において現在予定されている実施案の一部について、取組の概要を整理したものを参考として記載します。

SUP2030の具体的なプロジェクトにつきましては、SUP2030の開始に合わせて、幹事会構成員を含む全ての伊勢志摩国立公園地域協議会構成員の実施案を整理し、別資料にて管理します。

1) 多様な人々にとって価値のある国立公園の創出

取組	実施事項	実施団体
交通アクセス等の充実	パーク&バスライド	伊勢市
	二次交通問題解消	志摩市
	周遊促進	志摩市
受入れ環境づくり	バリアフリー観光推進	三重県、伊勢市、鳥羽市、志摩市
	看板等整備	南伊勢町、伊勢市
	修景伐採	環境省、三重県、伊勢市、鳥羽市、志摩市、南伊勢町
	利用拠点の機能強化・利便性の向上	環境省、三重県、伊勢市
インナープロモーション	住んでいる場所の魅力再発見事業	志摩市
	別の市・町の魅力を知る活動支援	環境省
指定80周年記念	指定80周年のインナープロモーション	伊勢市、鳥羽市、志摩市、南伊勢町、伊勢志摩国立公園協会
	指定80周年記念各行事	伊勢志摩国立公園協会
	指定80周年事業	環境省、鳥羽市、志摩市
SUP	地域協議会開催	三重県・環境省
	SUP若手ミーティング	環境省

2) 深掘りした価値のエコツーリズムの推進

取組	実施事項	実施団体
エコツーリズムの推進	コンテンツの作成、人材育成支援	伊勢市、鳥羽市、志摩市、南伊勢町、伊勢志摩観光コンベンション機構
	伊勢志摩国立公園エコツーリズム推進協議会の運営支援	三重県、伊勢市、鳥羽市、志摩市、南伊勢町
	自然観察会・体験教室	伊勢志摩国立公園協会
ガイド環境の整備	ガイドマップの作成	環境省
	ガイド育成	伊勢市、南伊勢町

3) 広域連携 -受入体制-

取組	実施事項	実施団体
受入体制の整備	伊勢志摩高付加価値インバウンド観光地づくり	鳥羽市、伊勢志摩観光コンベンション機構
	吉野熊野国立公園と連携した観光推進体制の構築	環境省
	国・県・関係市町、関係団体と連携した体制作り	志摩市

4) 広域連携 -プロモーション-

取組	実施事項	実施団体
プロモーション	誘客促進のプロモーション	環境省、三重県、伊勢市、志摩市、伊勢志摩観光コンベンション機構
	国・県・関係市町、関係団体と連携したプロモーション	環境省、伊勢市、鳥羽市、志摩市
	観光コンテンツの実証を行いながらのPR	志摩市
情報発信	Website, YouTube, SNS 等を活用した情報発信	伊勢市、鳥羽市、志摩市、南伊勢町
	TV、アプリ、雑誌等を活用した情報発信	伊勢志摩観光コンベンション機構

5. 効果検証

伊勢志摩国立公園地域協議会を定期的に開催し、取組の進捗状況の把握と目標の達成状況について確認し、取組の効果について検証を行います。

また、必要に応じ取組内容や指標、指標の目標値の見直しを行い順応的な管理を進めます。

(1)スケジュール予定(取組の進捗確認と目標の達成)

- ① 2026年7月頃までに第1回地域協議会幹事会を開催します。
 - ・ 第1回幹事会までに、2026年度以降に満喫プロジェクトとして取り組む事業計画の「2026年度当初案」をご提出いただきます。
 - ・ 事務局では、提出いただいた案を取りまとめ、幹事会において確認します。
- ② 2026年8月頃までに第1回地域協議会を開催します。
 - ・ SUP2030初年度である2026年事業案を確認します。
 - ・ その後、それに沿って各主体が事業を展開します。
- ③ 2027年2月頃までに第2回地域協議会幹事会を開催します。
 - ・ 第2回幹事会までに、2026年度事業の進捗報告、2027年度以降の事業計画案をご提出いただきます。
 - ・ 事務局では、提出いただいた報告及び事業計画案を取りまとめ、幹事会においてSUP2030初年度事業の進捗状況及び2027年度以降事業計画案などを確認します。
- ④ 2027年3月頃までに2026年度第2回地域協議会を開催します。
 - ・ 2026年度事業の進捗状況と課題を確認します。
 - ・ 2027年度以降の事業計画案を確認し、2026年度当初案の修正も可能とします。
 - ・ 伊勢志摩国立公園の個別目標・指標に関する事業成果を確認します。
- ⑤ 2027年度以降～2029年度の3年間は、毎年2月頃に幹事会、3月頃に地域協議会を開催します。
 - ・ 毎年度の事業案の進捗状況と課題を確認し、翌年度以降の事業案を検討します。
 - ・ 前年度に作成した案の修正も可能とします。
 - ・ この3年間は必要に応じて幹事会を開催します。
 - ・ 2030年度のスケジュールについては、2030年3月の地域協議会で決定します。
- ⑥ 2030年度末の地域協議会では、2026年度から2030年度までの5年間の取組の進捗状況を総括し、次年度以降の活動に活かします。

(2)目標の達成状況に係る評価

- ① 毎年度末の地域協議会で、アウトカム指標とその目標の達成状況を確認し、評価・検証を行います。
- ② 毎年度末の地域協議会で、アウトプット指標の活動指標を確認し、評価・検証を行います。
- ③ 2027年度以降検討して決定した、伊勢志摩国立公園の個別の目標・指標についても、毎年年度末の地域協議会で、当国立公園の活動状況の評価・検証を行います。

(3)プログラムの改訂

取組の進捗状況やアウトカム指標の達成状況、あるいはその他の理由によりプログラムの改訂が必要となった場合は、幹事会にて検討した後、地域協議会において検討・承認のうえ改訂を行います。

伊勢志摩国立公園地域協議会設置要綱

(目的)

第1条 国立公園の美しい自然を活かし、より上質な体験を提供することにより、世界水準の「ナショナルパーク」へと改革していく国立公園満喫プロジェクトを伊勢志摩国立公園において推進するための具体的なプログラム(以下、「ステップアッププログラム」という。)を策定し、実施していくことを目的に、関係機関の相互の連携を図るため、伊勢志摩国立公園地域協議会(以下、「協議会」という。)を設置する。

(協議事項)

第2条 協議会は、以下に掲げる事項を協議する。

- (1) 伊勢志摩国立公園における国立公園満喫プロジェクトの推進に関する事項
- (2) 「ステップアッププログラム」の策定及び実施に関する事項
- (3) その他、第1条の目的を達成するために必要と認められる事項

(構成員)

第3条 協議会は、別表1に掲げる関係機関等をもって構成する。

2 協議会は、必要に応じアドバイザーから意見を聞くことができる。アドバイザーは別表2とする。

(会議)

第4条 会議は、必要に応じて事務局が招集する。

2 議事は、事務局長が進行する。

(幹事会)

第5条 協議会の協議事項を円滑に進めるため、協議会に幹事会を設置する。

2 幹事会は、別表3に掲げる者で組織する。

3 幹事会では、次の事項について協議する。

- (1) 協議会から付託された事項
- (2) 協議会に付議すべき事項
- (3) その他、協議会の運営を円滑にするために資する事項

4 幹事会は、必要に応じ別表2のアドバイザーから意見を聞くことができる。

5 幹事会には、必要に応じ部会を置くことができる。

(事務局)

第6条 協議会の事務局は、三重県農林水産部及び中部地方環境事務所に置く。

2 事務局長は、三重県農林水産部長及び中部地方環境事務局長をもって充てる。

(改正)

第7条 この要綱は、第3条に規定する協議会の構成員の発議により、協議会に出席した構成員の合意を得て、改正することができる。

(その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則 この要綱は、平成 28 年 9 月 11 日から施行する。

平成 29 年 6 月 2 日 改正

平成 30 年 6 月 5 日 改正

令和 3 年 3 月 23 日 改正

令和 3 年 8 月 27 日 改正

令和 6 年 3 月 13 日 改正

令和 7 年 7 月 4 日 改正

第 3 条第 1 項 構成員

構成員
《観光関係団体》
一般財団法人 伊勢志摩国立公園協会会長
公益社団法人 伊勢志摩観光コンベンション機構事務局長
公益社団法人 伊勢市観光協会会長
一般社団法人 鳥羽市観光協会会長
一般社団法人 志摩市観光協会会長
南伊勢町観光協会会長
伊勢志摩国立公園エコツアーリズム推進協議会会長
鳥羽市エコツアーリズム推進協議会会長
伊勢志摩国立公園自然ふれあい推進協議会会長
《交通事業者》
近畿日本鉄道 株式会社部長
三重交通 株式会社常務取締役
《国の機関》
国土交通省中部運輸局観光部長
国土交通省中部地方整備局企画部長
環境省中部地方環境事務所長
《地方自治体》
伊勢市長
鳥羽市長
志摩市長
南伊勢町長
三重県地域連携・交通部長
三重県地域連携・交通部 南部地域振興局長
三重県雇用経済部長
三重県観光部長
三重県国土整備部長
三重県農林水産部長

第3条第2項 アドバイザー

アドバイザー
浅野 聡
天白 幸明
中村 賢一
橋川 史宏
皇學館大学
NPO 法人 伊勢志摩バリアフリースターセンター
株式会社 近畿日本ツーリスト中部
近鉄グループホールディングス 株式会社
株式会社 JTB
三井不動産 株式会社
鳥羽市立 海の博物館
神宮司庁
三重県農業協同組合中央会
三重県漁業協同組合連合会
いせしま森林組合
三重県商工会議所連合会
三重県商工会連合会
株式会社 百五銀行
三十三銀行
志摩半島野生動物研究会
※その他、事務局長が必要と認める者

第 5 条第 2 項 幹事会

構成員
《観光団体》
一般財団法人 伊勢志摩国立公園協会事務局長
公益社団法人 伊勢志摩観光コンベンション機構事務局長
《国の機関》
国土交通省中部運輸局観光部観光地域振興課長
国土交通省中部地方整備局企画部企画課長
環境省中部地方環境事務所伊勢志摩国立公園管理事務所長
《地方自治体》
伊勢市関係各課長
鳥羽市関係各課長
志摩市関係各課長
南伊勢町関係各課長
三重県関係各課長

国立公園満喫プロジェクト 伊勢志摩国立公園ステップアッププログラム 2030

発行日：令和8年4月22日

発行：伊勢志摩国立公園地域協議会

【事務局】三重県 農林水産部 みどり共生推進課 自然公園班

〒514-8570 津市広明町13番地(本庁6階) TEL 059-224-2627

環境省 中部地方環境事務所 国立公園課

〒460-0001 名古屋市中区三の丸2-5-2 TEL 052-955-2135
